



## 福音讃美歌ジャーナル

福音讃美歌協会

新しい歌を  
主に歌え

### ■巻頭言■ 礼拝を豊かに

福音讃美歌協会 讃美歌委員 蔦田直毅

「礼拝を豊かに」というテーマは、『教会福音讃美歌』誕生の背景にあった願いです。この讃美歌集1冊で何かができる、というような思い上がった気持ちではなく、豊かな礼拝の「一助」として、何かのお役に立てれば、というのが私たちの思いでした。それは『教会福音讃美歌』という結実を見、加えて、CDの刊行（これはまだ途上です）や、単旋律曲のための『教会福音讃美歌伴奏譜』、幾つかのセミナーなどに続いています。可能な限りの努力をこれからも続けて参ります。

2009年、札幌において第5回日本伝道会議が開催されました。まだ『教会福音讃美歌』が発行される前でしたが、分科会の一つを福音讃美歌協会が担当させていただきました。今年、神戸で開かれる第6回日本伝道会議でも、分科会の一つを担当させていただくことになっています。

聖書を読む時でも、歴史的な背景や当時の習慣、地理的な要素などを知ると、より深い理解ができるように、讃美歌もまた、その歴史や背景、作詞・作曲者の思いなどを知るほどに、その思いは豊かなものとなります。讃美歌の歌詞を味わうにも、表記のいくつかは漢字に替わっただけでも、その味わいが増します。加えて、作者の思いなどが理解できれば、より深い味わいとなることでしょう。福音讃美歌協会では、現在、ネット上で曲や作者の背景を日本語で知ることができるようにウェブページを準備中です。

私たち日本人の心や文化と讃美歌の関わり、また日本の歴史の中での讃美歌の成り立ちなどを扱う書物も出され続けています。さらに深い学びの中で、私たち自身の礼拝体験も深まり、また多くの人の心を主に結びつけることになることを、私たちは願っています。

私たちのもたらされてきた数多くの讃美歌が私たちの信仰体験に深くかかわっているように、伝えられた讃美歌の伝統と、受け継いだ宝物を次の世代に伝えていくために、ご一緒に主を讃美し、その讃美を広く、深く、味わわせていただきましょう。

「それは……私たちの先祖が語ってくれたこと……それを私たちは彼らの子孫に隠さず、後の時代に語り告げよう。主への賛美と御力と、主の行われた奇しいわざとを。」（詩篇78:3, 4）

今回の伝道会議では、分科会の「通し枠」の中で、日本における讃美歌の歴史や背景を学びながら、実際に讃美歌を歌うというプログラムを準備しています。多くのご参加をいただきたいと願っています。

#### CONTENTS

|                    | 頁 |
|--------------------|---|
| ・巻頭言 礼拝を豊かに 蔦田直毅   | 1 |
| ・キャサリン・ポーター インタビュー | 2 |
| ・『教会福音讃美歌』編集作業の道のり |   |
| 第6回 中山信児           | 4 |
| ・INFOMATION        | 6 |
| ・ハレルヤぼうや Yukiko    | 8 |

## 東北被災地で活躍するハーピスト キャサリン・ポーターさん インタビュー

この3月、ハープによる讃美歌CD『光の中へ』がリリースされました。演奏しているのはイギリスの女性ハーピストで、3.11岩手教会ネットワークで協力宣教師として奉仕しているキャサリン・ポーターさんです。このCDは『目を上げて』に続く、彼女のセカンドアルバムで、有名な讃美歌、新しい讃美歌、彼女の愛唱讃美歌などが、美しく気品のあるアレンジで演奏されています。

どちらのアルバムにも『教会福音讃美歌』から多くの讃美歌が選曲されています。

ー 最初に、ご家族のことや子どもの頃の思い出などを聞かせてください。

キャサリン： 父は医者で、母はずっと主婦をやっていましたが2013年から教会で働くようになりました。兄はドイツで讃美歌や音楽学の研究をしています。兄はフルーティストで、小さい時、私達は喧嘩しながら一緒に演奏したりしました。父も母も家族の中で最初のクリスチャンでしたから、私はクリスチャンホームでした。今も祖父と祖母はクリスチャンではないんです。

ー キャサリンさんが演奏しているハープって、どんな楽器ですか。

キャサリン： ハープは創世記の昔からある楽器ですが、現代のハープはオーケストラの中でも聞こえるように大きい音が出せるようになっています。弦は47本で、「ド」の弦は赤、「ファ」の弦は黒、他の弦はみな白となっています。ペダルは7つあって、左から言うと、レ、ド、シ、（左足で動かす）ミ、ファ、ソ、ラ、（右足で動かす）の順番になっています。ペダルを動かすとその弦が短くなって音が半音上がりますので、シャープとフラットはペダルで操作します。ハープは日本のお琴に似ていると言われますが、爪ではなくて直接指で弾くので、お琴より音色が優しいと思います。

ー ハープを演奏していて、苦労したことはありますか。

キャサリン： ハープはいつも練習していないと弾けない楽器です。なぜなら、指にたこができていないと弾くときに痛いんです。水ぶくれや血豆もできます。弾くのも大変ですが、運ぶのもかなり大変です。車じゃないと移動できないし、大きな車じゃないと積めないんです。

ー CDには素敵な讃美歌の演奏が入っていますが、アレンジは自分でするのですか。



キャサリン： はい、自分でやっています。アレンジをしようとする曲は大体自分のデボーションで讃美している曲です。何かの理由でその曲が心に響いて、自分の信仰を現す曲になったときに、ハープでもささげたくになります。讃美歌集とパソコンを持って、ハープを置かせてもらっている教会の事務室で作業します。讃美歌集の楽譜に書いてある通りに何回も弾いて、どのようにすれば私の心に響くところを、聞いてくださる方の心に届けることができるかと考えます。例えば「馬槽のなかに」をアレンジする時に、伝道コンサートで弾くことを考えていました。この曲で一番伝えたかったのは「この人を見よ」という歌詞でした。

イエス様を見ていれば、その生き方を見ていれば、救いへの道を見ているからです。4節あるので、「この人を見よ」という言葉は4回繰り返されます。毎回、そのところを楽器で大きく響くようにアレンジしました。

ー 選曲や編曲をする時とか、演奏をする時に心がけていることはありますか。

キャサリン： 選曲の時は二つのことを考えます。まず、今、私がこの曲で神様に讃美をささげることによってどんな意味があるのかということ。もう一つは、演奏は神様への讃美ですが、それを聞いてくださる人がいます。クリスチャンの方なら、その曲がその方の心からの讃美になるように願っています。未信者なら、讃美のあり方で神様がどういうお方なのかを分かってもらいたいです。歌詞もとても大事ですが、最高の音楽であることも求められます。讃美だからといって音楽の技術が低くていいわけではなく、最高のものをささげたいです。演奏する時には様々な思いがあります。どんな思いで演奏したかは伝わります。去年のクリスマス、ある牧師が二日連続、私の演奏を聴いてくれました。2回目が終わった時、「今日の方が良かった」と言われました。実は、1回目の演奏の時、私は神様より、目の前にいる方たちのことを考えていて、そのために福音が伝わらなかったように感じていました。反省して、2回目の演奏の直前も祈って、神様だけを知る、イエス様の十字架の他に何も知らないで心で決めて、演奏しました。音楽を用いて伝道するというより、讃美をささげること、神様を礼拝することが証になるように願っています。

ー キャサリンさんが日本に来たきっかけは何ですか。

キャサリン： 私は小さい時からずっとプロの音楽家になりたくて、大学で音楽を勉強してから音大でもハープの勉強を続けました。その中で、成功したら自分は価値がある者のように思い、失敗したらすぐ落ち込んでいました。喜びがなく、何のために生きているか分からなくなりました。その時、前から教会で聞いていた神様の愛がどういうものか少しずつ分かってきました。その愛が私のためだと信じて、その愛の中で癒されて、この真理の上に立とうとしました。自己中心の人生ではなく、私を愛してくださる神様中心の人生を送りたくくなりました。少し時間が経ちましたが、宣教師の方と出会って、その方の宣教団がちょうどその時、音楽ミニストリーを始めて、音楽家を必要とされていました。宣教師になりたいという思いはその時まで私になかったのですが、神様の導きで短期宣教プログラムに申請して、2010年日本に来ることとなりました。正直言えば、日本に来たいと思わなかったんですが、来たら、これが私の計画を超える神様の素晴らしい愛の計画だと知りました。神様は私に色々なことをやさしくやさしく教えようとしてくださっていました。2010年は3ヶ月ぐらい滋賀県のある教会で奉仕をさせてもらったんですが、そこにいる間、長期宣教師として日本に来るように導かれているように確信して、2011年3月に日本に引っ越ししてきました。

ー 今、日本ではどんな働きをしているのですか。

キャサリン： 来日は東日本大震災の2週間後でした。このタイミングも導きとして受け止めて、ハープを持って、私は岩手県に住んでいます。最初の頃は毎日ハープを仮設の集会所で弾いて、日本の民謡の伴奏、讃美歌と証も分かち合っていました。そういう活動を通して、地域の方と関係作りがやりやすくて、今になると私は戸別訪問で被災されたひとりひとりの話を聞かせてもらっています。今週はカゴ作り教室を教えて、教会カフェを仮設でやって、家で食事会もしました。仮設でハープを弾くことは今もあるんですが、岩手から出かけて、あちこちの教会の伝道コンサートを手伝うことが多くなりました。出かけるときは被災地の報告や、私がここで神様から教えていただいたことも分かち合っています。

ー 最後に、日本のクリスチャンたちに伝えたいことはありますか。

キャサリン： 日本に来てから、皆さんを通して多くの励ましをいただき、たくさんのことを教えられています。ありがとうございます。文化を越えると何が文化だったか、何が信仰のあり方なのかと見えてくることもあります。その中で皆さんと心のそこから信仰の分かち合いができるのは本当に喜びです。



## 1. さまざまな交渉

一冊の讃美歌集を編纂するためには、数え切れないほどの交渉が必要になります。最も大切で煩雑なのは個々の讃美歌について使用許諾を得ることですが、これについては、いのちのことば社スタッフがほとんどの業務を行いました。これは選曲がほぼ固まってからの作業となりますので、後でまた触れることになるでしょう。

これと関わって、他の讃美歌集の編纂団体あるいは発行団体との交渉も重要です。というのは、日本では個々の讃美歌の権利を、作者ではなく編纂団体あるいは発行団体が持っている、あるいは管理しているケースが多いからです。そのため、ある讃美歌集に収録されている讃美歌を採用したい場合、その讃美歌集の編纂団体あるいは発行団体との交渉が必要になります。採用したい曲が少ない場合は電話や文書のやりとりで済みますが、数十曲規模になると直接お会いしての交渉が不可欠です。『教会福音讃美歌』では、『聖歌』『讃美歌』『讃美歌21』の三つの讃美歌集がこれに当たります。

『聖歌』に収録されている欧米の讃美歌の多くは、オリジナルがパブリック・ドメイン（いわゆる著作権切れで自由に使って良いもの）になっています。しかし、それはあくまでもオリジナルについてであって、翻訳者である中田羽後の権利はまだ生きています。現在、中田羽後の著作権はすべて、『新聖歌』を出版している教文館が管理しています。

『讃美歌』『讃美歌21』を編集したのは日本基督教団讃美歌委員会（以下、教団讃美歌委員会）ですが、現在、この委員会は日本キリスト教団出版局（以下、教団出版局）のもとに置かれています。教団讃美歌委員会は、他にも中小の讃美歌集を数点編纂しており、それらはすべて教団出版局から出版されています。それらの歌集に収録されている讃美歌の著作権のあり方は一様ではなく、教団讃美歌委員会が管理しているもの、作者がJASRACに管理を委託しているもの、海外の出版社や個人が管理しているもの等、多岐に涉ります。

今回、直接お会いして交渉したのは教文館と教団讃美歌委員会です。他の団体とは電話や文書でやり取りをしました。特に教団讃美歌委員会は、扱っている讃美歌集や讃美歌の数が多いこともあって、こちらからの問い合わせに応えるためのリサーチや資料整備などにも多くの時間を割いてくださいました。交渉の内容は交渉先によって異なりますが、主なものを列挙すると以下ようになります。

- ・作品の使用についての依頼。
- ・著作権者あるいは著作権管理者についての問い合わせ。
- ・讃美歌の利用に際しての制限や条件の確認。
- ・採用元と異なる形での讃美歌利用の可否。

## 2. 具体的な交渉の中身

讃美歌を利用する際の制限や条件は、団体や讃美歌集や作者によって様々ですが、例えば、中田羽後作品や『讃美歌21』については、一つの讃美歌集で利用して良い作品数（歌詞と曲はそれぞれ別に数える）に制限がありました。当初、我々が採用を希望した作品の数は、その制限より多かったため、選曲を途中で見直す必要が生じました。そのため、何度か採用希望曲のリ

ストを作り直し、先方にもチェックしていただいて、特別な事情のあるものは持ち帰って検討し直すという作業を行いました。

採用元と異なる形での讃美歌利用には、いくつかのケースがあります。一つのケースは、歌詞を採用元と別の TUNE（曲）で採用したい場合です。英語の伝統的スタイルの讃美歌は、ひとつの歌詞をいろいろな TUNE で歌うことができるようになっています。そのため、日本ではある TUNE で歌われている讃美歌が、欧米では別の TUNE で良く歌われているという場合がよくあります。そのような場合には別の曲で採用することが検討課題となります。

たとえば『教会福音讃美歌』では328番「あめなるよろこび」の TUNE は "BLAENWERN" ですが、『讃美歌21』（475番と476番）は "BEECHER" と "HYFRYDOL" という二つの TUNE で収録しており、『讃美歌』（352番）には "BEECHER" で収録されています。日本の教会では、この歌詞は長らく "BEECHER" で歌われてきました。しかし、"BLAENWERN" と "HYFRYDOL" には、"BEECHER" にはない気品と豊かさがあります。試みに小節数を数えてみると "BEECHER" は16小節、"BLAENWERN" と "HYFRYDOL" はどちらも32小節です。長さだけで曲の価値を計ることはできませんが、深い意味を湛えた歌詞の豊かさを味わうには、十分な長さのある曲の方が有利なことは確かです。また、歌集レベルの採用件数だけを見ると "BEECHER" が今でも一番多いのですが、欧米では "BLAENWERN" の方が良く親しまれて、いろいろな場面で用いられるようになっています。2011年の英国ロイヤルウエディングでも、この讃美歌が "BLAENWERN" で歌われて世界中に TV中継されたので、お聴きになった方も多いことでしょう。

さて、私たちは様々なりサーチと検討の結果、「あめなるよろこび」の歌詞を『讃美歌21』から採用することを決定し、TUNE は『讃美歌』や『讃美歌21』とは異なる "BLAENWERN" を採用することを希望しました。そのことを教団讃美歌委員会に打診したところ快く承認していただき、日本の讃美歌集では恐らく初めてこの歌詞を "BLAENWERN" で紹介することができたのです。ひとつ加えると、長く親しまれてきた "BEECHER" は、新しい歌詞を付けて収録することになりました。319番の「主イエスのみ声は罪ある者を」がそれです。

もう一つのケースは、歌詞に小さな修正を加えて採用したい場合です。このような願いは讃美歌作家の立場からは基本的に認められないことなのですが、讃美歌集が公同性の高い出版物であることに配慮していただき特別に認めていただいたことがあります。『教会福音讃美歌』188番「主はわがかいぬし」は、詩篇23篇の内容を忠実に讃美歌に移し替えたすぐれた作品です。これは『讃美歌21』120番からの収録ですが、『讃美歌21』では2節の歌詞が「青草の原に われを伏させ」となっています。この「青草の原」という表現は『新共同訳聖書』の表現を踏襲したもので、『口語訳聖書』『新改訳聖書』では「緑の牧場」となっています。そこで我々は2節を「緑の牧場に われを伏させ」と変えて収録したいという希望を教団讃美歌委員会に出しました。みことばに忠実な歌詞であるからこそ、我々も普段使っている聖書のことばと一致した歌詞で歌いたいという願いなのですが、これは芸術や文学作品として考えた場合には断られて当然の願いでもありました。しかし、教団讃美歌委員会では、公同の礼拝で用いる讃美歌集であるという事情を酌んで、この件も快く了承してくださいました。

以上二つの交渉例を挙げました。他にも様々な案件について諸教派、諸団体と交渉を重ねましたが、多くの場合、同じキリスト教界の働きとして快く受けとめていただき、協力を得ることができました。関係者の皆様にはこの場を借りて、心から感謝を申し上げます。

# ❖ INFORMATION ❖



## ♪ CD『教会福音讃美歌 vol.4

—日本人がつくった神への讃美— (6月発売)

JEACS会員教会・特別注文のご案内

会員教会の皆様には、定価 2700円を特価 2300円 (いずれも税込み) での特別注文を受け付けております。特別注文には会員教会に郵送される「特別注文書」をお使いください。

特別注文の締切は、2016年 8月31日です。

なお、特別注文は書店では受け付けておりませんので、書店へのお問い合わせはご遠慮ください。

### 収録曲

- 1 わが主よ わが神よ (186)
- 2 心を尽くして (7)
- 3 夜明けの丘は (151)
- 4 主よなが道われに示し (189)
- 5 しみわれを囲むとも (421)
- 6 キリストの前に (452)
- 7 われらはキリストのもの (232)
- 8 主の食卓を囲み (265)
- 9 子どもを愛する主の御前に (285)
- 10 私を見つめ (286)
- 11 主の御前に集い (506)
- 12 あなたの神 (211)
- 13 詩篇73:21-24 (194)
- 14 主の祝福があるように (206)
- 15 たとえば私が (395)
- 16 豊かな賜物 (176)
- 17 ヨハネ3:16 (217) / あなたがたのからだを (267)
- 18 父なる神に (275)

### 演奏

木声会  
木声会  
エヴァンゲリウム・カントライ  
エヴァンゲリウム・カントライ  
エヴァンゲリウム・カントライ  
木声会  
木声会  
フェリス・フラウエンコーア  
フェリス・フラウエンコーア  
フェリス・フラウエンコーア  
木声会  
西由紀子  
西由紀子  
フェリス・フラウエンコーア  
塩谷達也  
塩谷達也  
塩谷達也  
塩谷達也

## ♪ 『教会福音讃美歌伴奏譜 単旋律曲のために』福音讃美歌協会編 (2015/12発行)

### 収録曲

46) 初めにおられた神のみことば、47) 叫べ全地よ、48) Oh Give Thanks、57) スピリット・ソング、143) いざ歌え高らかに、165) 慈愛のいぶきよ、166) 神の愛よ、聖なる霊よ、194) 詩篇73:21-24、195) 詩篇95篇、201) さあ主をほめたたえよ、206) 主の祝福があるように、213) 神の国と神の義、215) いと高き所に栄光が、217) ヨハネ3:16、221) 黙示録5:13、252) ハレルヤと歌え、263) 人の知恵も、267) ローマ12:1、275) 父なる神に、288) 主よ われらをあわれみたまえ、289) 聖なる主よ あなたを慕い、294) 感謝ささげよ あわれみの主に、331) 私たちのこの口は、362) 互いに愛し合い、370) あなたのリズムに合わせ、382) God bless you、395) たとえばわたしが、469) Send me! (SEND・ミー)、485) あなたの平和の

付録「奏楽奉仕者の皆さんへ ～ より良い奉仕をささげるために」

## ♪ 讃美歌についての集会を企画してみませんか。

礼拝説教、伝道会、修養会、讃美についての学び、音楽奉仕者の研修や講習などに、福音讃美歌協会の理事、讃美歌委員を派遣いたします。ぜひお招きください。

お問い合わせ: info@jeacs.org tel.03-5341-6920 fax.03-5341-6921 (いのちのことば社)

# ＊ 会 計 報 告 ＊

2015年4月-2016年3月

## ■収入の部■

| 科 目        | 2015年度予算  | 2015年度実績  |
|------------|-----------|-----------|
| 会員負担金      | 1,210,000 | 1,123,000 |
| 正会員        | 750,000   | 750,000   |
| 準会員        | 60,000    | 60,000    |
| 賛助会員       | 400,000   | 313,000   |
| 自由献金       | 150,000   | 230,200   |
| その他        | 0         | 48        |
| 当年度収入合計（A） | 1,360,000 | 1,353,248 |
| 前年度繰越金     | 1,303,409 | 1,303,409 |
| 収入合計（B）    | 2,663,409 | 2,656,657 |

## ■支出の部■

| 科 目              | 2015年度予算  | 2015年度実績  |
|------------------|-----------|-----------|
| 理事会費             | 110,000   | 102,336   |
| 委員会費             | 235,000   | 309,679   |
| 人件費              | 360,000   | 360,000   |
| 事務費              | 305,000   | 201,051   |
| ジャーナル発行費         | 500,000   | 433,824   |
| カンファレンス開催費       | 100,000   | 204,093   |
| 総会開催費            | 20,000    | 11,466    |
| JEA関係費           | 62,000    | 62,000    |
| 経常支出合計           | 1,692,000 | 1,684,449 |
| 特別支出 積立金         | 500,000   | 500,000   |
| 予備費              | 50,000    | 0         |
| 当年度支出合計（C）       | 2,242,000 | 2,184,449 |
| 当年度収支差額（A） - （C） | -882,000  | -831,201  |
| 繰越額／残高 （B） - （C） | 421,409   | 472,208   |

### 【賛助会費納入者】（2015年4月～2016年3月）

都賀キリスト教会、馬天キリスト教会、浜田山キリスト教会、上作延キリスト教会、世田谷中央教会、菅生キリスト教会、キリスト教朝顔教会、大宮キリスト教会、（8教会）  
齊藤眞木子、刑部照美、稲垣博史・緋紗子、石川岩夫、倉富隆子、高橋和江、大賀勝範、田村勉（8件）

### 【献金者】（2015年4月～2016年3月）

武蔵台キリスト福音教会、泉キリスト教会、古河教会、日本福音キリスト教会連合、いのちのことば社、讃美セミナー席上献金、茨城県金子、山村雅彦、湊信明・明子、西川晴子（10件）

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール（info@jeacs.org）で、その旨をお知らせください。

# ハレルヤほうや

BY YUKIKO



イザヤ30:21

## 福音讃美歌協会・会員募集

◇会員の種別は、以下の三種類です。

正会員（教会・教団・教派等）、準会員（超教派団体・グループ等）、賛助会員（趣旨に賛同し支援してくださる教会、個人等）

◇賛助会員のお申し込みは、入会申込書をご請求いただき、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお送りください。承認後、年会費のお振込みにより入会が完了致します。

◇正会員、準会員のお申し込みにつきましては、協会へ直接お問い合わせください。

### ◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127

名称 福音讃美歌協会

### ◆郵便貯金口座（ぱるる）◆

番号 10500-82654721

名称 福音讃美歌協会

### ◆銀行口座◆

みずほ銀行 ユーカリが丘支店

普通預金 口座番号 1604668

名称 福音讃美歌協会

## 福音讃美歌協会 JEACS

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1

OCCビル 602号室

tel.03-5341-6920 fax.03-5341-6921

(いのちのこことば社出版事業部内)

ホームページ <http://jeacs.org/> メール [info@jeacs.org](mailto:info@jeacs.org)

## From Editor

## 編集後記

今回、インタビューに応じてくださったキャサリン・ポーターさんは最初のCDから『教会福音讃美歌』の讃美歌を用いてくださいました。ハープのCDですから、もちろん歌は入っていないのですが、歌詞カードには『教会福音讃美歌』の新しい翻訳が多く掲載されています。

『教会福音讃美歌』が出版されて今年で4年になりますが、この間、いろいろな歌手や演奏家の方々からCD等での楽曲利用について問い合わせをいただきました。この春には某ミッシェンスクールから式典での利用についても問い合わせもありました。そのような場合に、個々の著作者や著作権管理団体についての情報を提供し、申請のお手伝いをするのも、福音讃美歌協会の働きのひとつです。そして、事務的なやり取りの間に、「この讃美歌を紹介してくれてありがとう」「新しい歌詞で歌いたい」ということばをお聞きできるのは、編集に携わった者として、大きな喜びであり、感謝です。

他にも、面白い利用の仕方としてボーカロイドによる讃美歌ムービーがあります。インターネットの動画サイトには『教会福音讃美歌』の曲も二十曲以上アップされているようなので、興味のある方は『教会福音讃美歌、リン・レン』で検索してみてください。

(な)